

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720069

研究課題名(和文) 形成期関西新劇の上演研究

研究課題名(英文) Study on Early Stage of Shingeki in Kansai

研究代表者

正木 喜勝 (MASAKI, Yoshikatsu)

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：80456938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大正期の関西における新劇運動の実態を、「上演」および「東京との比較」という点に注目しながら調査・研究することを主眼とした。具体的には、文芸協会や築地小劇場の関西公演のほか、関西新劇の嚆矢とされる『幻影の海』の上演分析を行った。その結果、関西新劇の誕生に「宝塚」という場所が果たした大きな役割を明らかにすることができた。詳細は拙稿「宝塚と新劇(1) 宝塚のパラダイスと関西新劇の誕生」のとおりである。

研究成果の概要(英文)：This study has focused on the actual circumstances of the Shingeki movements in Kansai area during Taisho period, exploring the research on "the performances" and "the comparisons with the theatres in Tokyo"; for example, I am analyzing the plays performed by the Bungei-Kyokai and the Tsukiji-Shogekijo and illustrating the analysis of "The Shadowy Waters", which is referred to as the initiation of the Kansai-Shingeki. Moreover, it explains that certain facilities in the Takarazuka-Shin-Onsen had played a major role in Shingeki's onset of Kansai area, which is exemplified in my essay, "Takarazuka and Shingeki: The Paradise Theatre in Takarazuka and the birth of the Kansai-Shingeki".

研究分野：演劇学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：新劇 宝塚

1. 研究開始当初の背景

(1) 関西新劇の研究

本研究の根底には次の二つの問題意識があった。第一には、従来の近代日本演劇史研究が重要視してこなかった「関西新劇」を再発見し、これまでの近代日本演劇史観に新しい視点を投げかけることである。新劇は明治末期から大正にかけて成長を遂げたが、これまでの新劇研究は、文芸協会や自由劇場、築地小劇場など、東京で展開された運動に焦点を当てることがほとんどであった。たとえば、大笹吉雄『日本現代演劇史』においさえ、関西演劇については宝塚少女歌劇や曾我廼家五郎劇については頁を割いているものの、新劇の動向についてはまとまった記述がほとんどない。

そうした中、近年関西新劇に注目する研究が生まれてきた。たとえば、大岡欽治『関西新劇史』(東方出版、1991年)や依岡隆児「築地小劇場と関西新劇運動-ドイツ表現主義からの影響を中心に-」『関西モダニズム再考』(思文閣出版、2008年)である。前者は大阪の新劇界で活躍した当事者の著作だが、多くを昭和期のプロレタリア演劇に費やしている点で、大正期すなわち新劇形成期を扱う本研究とは射程範囲を異にしている。後者は大正期を中心に扱っている点、築地小劇場の関西新劇への影響を論じている点で本研究の数少ない先行研究である。

(2) 上演の研究

第二には、関西新劇史および日本近代演劇史を「上演」という側面から再考することである。日本近代演劇研究とりわけ新劇研究はこれまで、戯曲研究や劇作家研究を中心に進められることが多かった。だが、本来「演出の確立」も新劇の特質の一つであったことを考えれば、戯曲が有する台詞や主題の分析もさることながら、それがいかに立体化されたかということをも明らかにする「上演分析」も重要なのは明白だろう。

演出家はどのように戯曲を解釈したのか、俳優はどのような演技でそれを体現しようとしたのか、舞台装置、照明、音響効果がど

のように機能したのか。観客はそれをどのように受容したのか。その上演のいかなる点が評価されたのか、あるいは問題視されたのか。そもそもその劇が上演された場所はいかなる場所であったか。こうした問いに答えることは、戯曲分析にとどまる傾向にあった日本近代演劇史研究に新しい刺激を与えるだろうと予想された。なお研究代表者はこれまで一貫してこの上演分析による日本近代演劇史研究を行ってきた。

2. 研究の目的

(1) 「上演」および「東京との比較」

本研究は、大正期の関西における新劇運動の実態を、その「上演」という側面に注目しながら調査・研究することを主眼とした。大正期は関西新劇の形成期であり、関西において新劇がどのように誕生し、どのように成長していくのかということについて明らかにしようとした。

その際、「東京から関西への影響関係(受容および葛藤)」にも注目した。東京中心の従来の近代日本演劇史の裾野を広げ、修正を加えることもできるだろうと考えたからである。また、東京から発信される演劇が他地域に波及していく際の一つのモデルケースにもなりうるだろうと考えた。

同じ戯曲の上演であっても上演場所が変われば舞台のあり様は当然異なり、また観客の受容のあり方にも違いが現われるものである。たとえば、築地小劇場は宝塚公演を三度行っているが、それは東京での公演とは演目は同じでも観客の反応は異なるものだった。こうした差異を具に掬い上げていくことも、東京中心の近代日本演劇史の相対化に繋がると思われる。

この問題意識はこれまでの研究代表者の研究成果から自ずと導き出された。研究に着手した頃は東京の新劇を対象とすることが多かったが、近年になって関西新劇研究の重要性を強く認識するにいたった(「芸術」と「民衆」の間での幕開け『上方芸能』181号、pp. 21-24、2011年。「宝塚国民座の『ウイン

ゾアの陽気な女房』、『館報 池田文庫』33号、2008年）。

(2) 分析の対象

以上のことを調査・研究するためには、何よりも大正期関西新劇の上演の再構築が必要だが、研究開始当初の予定はおおよそ次の通りであった。

まず、文芸協会の関西公演と、それに刺激を受ける形で展開されていく第一次関西新劇運動の上演作品を取りあげる。具体的には、文芸協会の『人形の家』『ヴェニス商人』（ともに1912年・中座）と『思い出』（1913年・浪花座）の上演の様相とその受容のあり方を明らかにする。そして、関西における第一次新劇運動の担い手である関西劇芸術研究会の『僧房夢』（1913年・明治座）同じく運動を担った関西新劇協会の『人民の敵』（1914年・中座）等の上演分析を行う。

次に、坪内逍遙のページェント理論を踏まえたとされる野外劇『織田信長』（知恩院・1922年、二世市川左団次等出演）および関西学院劇研究会主催の野外劇『地蔵経由来』（関西学院・1924年）の上演の再構築を行う。

そして、3回にわたる築地小劇場の宝塚中劇場での公演（[1]1925年8月『海戦』『牧場の花嫁』『犬』『横面をはられる彼』、[2]1926年3月『白鳥の歌』『熱風』『長男の権利』『ホオゼ』）、[3]1930年3月『吼える支那』）の上演および受容のあり方を分析し、宝塚が生んだ新劇団である国民座の上演への影響についても明らかにする。

3. 研究の方法

上述の通り本研究は、まず個別の上演の一次資料を収集したうえでその再構築を行い、ついでそれらの上演の理論的背景を、東京を中心に語られてきた日本近代演劇史と照らし合わせながら考察する手続きをとった。

平成24年度には主として一次資料の収集と上演の再構築を行い、平成25年度には引き続きそれらを行いつつ、理論的背景の分析および近代日本演劇史への位置づけを行っ

ていった。

(1) 平成24年度

大正期関西新劇の一次資料の収集を行った。主として、文芸協会の関西公演『人形の家』『ヴェニス商人』（1912年・中座）『思い出』（1913年・浪花座）、関西劇芸術研究会『僧房夢』（1913年・明治座）、関西新劇協会『人民の敵』（1914年・中座）、野外劇『織田信長』（1922年・知恩院）、関西学院劇研究会『地蔵経由来』（1924年・関西学院）、築地小劇場『海戦』『牧場の花嫁』『犬』『横面をはられる彼』（1925年・宝塚中劇場）、『白鳥の歌』『熱風』『長男の権利』『ホオゼ』（1926年・宝塚中劇場）、国民座の上演に関する資料を対象とした。

上演の再構築を行うには、制作者側（劇作家、演出家、俳優など）と受容者側（観客、批評家、記者など）の資料が必要となる。そのために、まず同時代の新聞や雑誌の演劇関係の記事を渉猟した。

新聞では、地元紙である『大阪朝日新聞』およびその「京都附録」、『大阪毎日新聞』『大阪時事新報』『大阪新報』『京都日出新聞』『神戸新聞』『神戸又新日報』『関西日報』等があるが、これらについては京都府立図書館、大阪府立図書館、神戸市立中央図書館、国会図書館等で調査した。新聞の調査にあたっては、国立劇場近代歌舞伎年表編纂室編『近代歌舞伎年表』（大阪篇、京都篇）などの目録も活用した。

雑誌では『劇』『舞台評論』『現代演劇』『演劇雑誌』（いずれも大阪発行）など主要なもの以外にも、関西演劇についての記述が掲載されている20以上の文芸誌（たとえば『西日本文芸』『雑草苑』『マスク』『文芸画報』等）を、池田文庫、早稲田大学演劇博物館、日本近代文学館等で調査した。

また、関係者の資料も調査した。大岡欽治資料（エルライブラリー所蔵）のほか、関西新劇の形成期に関わった加藤朝鳥、加藤みどり、岩野泡鳴、小林一三、高尾楓蔭、坪内士行、豊岡佐一郎らの著作、関西新劇の調査を行っていた松本克平資料（札幌大学所蔵）などである。

(2)平成 25 年度

一次資料を引き続き収集し、上演の再構築を継続して行う一方、本年度は関西新劇の上演を日本近代劇史の中に位置づけるとともに、従来の日本近代劇史観に新しい視点を提供することを中心に据えた。

そのためには同時代の東京の演劇界の動向を理解する必要がある。これまで一貫して研究してきたことであるが、ここでは改めて関西の上演の様相を念頭に置きながら取り組んだ。近代以降の通史である大笹吉雄『日本現代演劇史』、秋庭太郎『日本新劇史』、大山功『近代日本戯曲史』の他、本研究と特に関係する文芸協会、坪内逍遙、築地小劇場に関する先行研究も調査した。

以上兩年度にわたる調査・研究の一つの成果として、以下に示すとおり、関西新劇にとって「宝塚」という場所が大きな役割を果たしていたことが明らかになった(この成果はあくまで発表された一つの成果であり、現段階で未発表のものについても、研究期間終了後に引き続き発表を行う予定である)。

4. 研究成果

(1)未確認資料の調査

本研究の成果は主として二つある。第一には、これまで言及されることのなかった関西新劇に関する資料をいくつか確認することができたことである。

例えば、札幌大学図書館所蔵の松本克平旧蔵資料には、他の機関では見つけることのできなかつた関西新劇の一次資料が多くあり、今後の関西新劇研究に大いに役立つことが確認された。また、調査の過程で、京都の新劇団の未刊行資料を入手できたことも成果の一つである。これらについては、本研究期間終了後も調査と分析を継続して行い、その結果を公開する予定である。

これら「大きな発見」以外にも、関西で発刊された雑誌等において、これまで未確認だった関西新劇史に関する二次資料を見つかることができた。関西新劇についての先行研

究、参考文献自体が少ない中、これらの二次資料の確認は、次に示す第二の研究成果にも大いに役立った。

(2)「宝塚」の役割

本研究は大正期の関西における新劇運動の実態を、その「上演」および「東京との比較」という側面に注目しながら調査・研究するものであった。既述のとおり、(a)関西における第一次新劇運動と文芸協会 (b)宝塚と築地小劇場 (c)関西野外劇と坪内逍遙のページェント理論、の三つを主たるテーマにしていたが、調査を進めていく中で、「宝塚」という場所が関西における第一次新劇運動に大きな役割を果たしていたことが明らかになった。

すなわち、研究開始当初は(a)と(b)を独立したものとして扱っていたが、両者に密接な関係があることがわかったのである。宝塚と新劇といえば、築地小劇場の関西公演を受けて誕生した宝塚国民座を想起させるが、それ以前から影響関係があったことは、これまで十分に知られていたことではなかった。関西新劇の嚆矢は『幻影の海』(イエーツ作、加藤朝鳥演出)とされているが、これが上演されたのが、のちに宝塚少女歌劇の拠点となる宝塚新温泉内の「パラダイス」という娯楽館であったのである。

この上演に関する資料の調査・研究を集行的に行い、上演そのものとそれをとりまく環境、すなわち、パラダイスはどのような劇場を有していたのか、そこはどのようなパフォーマンスが行われる場所だったのか、『幻影の海』がどのように受容されたのかといった点を明らかにすることができた。この成果の詳細は、以下に挙げた拙稿「宝塚と新劇(1)宝塚のパラダイスと関西新劇の誕生」において発表された。

今後の展望としては、(1)の資料調査の結果を公開することと、(2)で明らかになった関西新劇史における「宝塚」の意義を踏まえ、同じく「上演」と「東京との比較」という観点を維持しながら、その後の第二次新劇運動と宝塚の関係を調査・研究することである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

正木喜勝、宝塚と新劇(1) 宝塚のパラダイスと関西新劇の誕生、阪急文化研究年報、査読無、2号、2013、11 - 18

6. 研究組織

(1)研究代表者

正木 喜勝 (MASAKI YOSHIKATSU)

大阪大学・大学院文学研究科・招へい研究員

研究者番号：80456938

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし